

我が国経済は、2002年以来、長期の景気回復を続けてきたが、2007年に景気の踊り場的な状況を迎え、2008年秋にはアメリカを中心とした世界的な金融不安の高まりとともに世界規模の経済減速が始まると、景気回復の牽引力を外需に依存していたが故に、他の国々にもまして大きな経済収縮に直面することとなった。

2002年からの景気回復過程は、輸出の拡大によるところが大きく、所得・消費の伸びは力強さを欠くものであった。そして、新興工業国の成長などによって素原材料の需給が逼迫し、エネルギー価格にも投機的な上昇傾向がみられ、我が国の輸入物価は上昇し、企業収益は圧迫されるとともに、消費者物価も上昇し実質賃金は低下することとなった。これに伴い、長期にわたった景気回復も2007年秋には、後退過程へと転じ、さらに、2008年秋以降には、世界経済の減速に伴って、外需は大きく落ち込み、厳しい経済収縮に直面することとなった。今回の景気後退局面の深刻化は、このような二つの局面が重なり合うことから生じており、国内需要の形成という観点から中長期的な課題を示している賃金、物価面の動向と、外需と生産の大きな落ち込みから生じた2008年秋以降の雇用の動向との二つの側面において、分析、検討を行うことが重要であると考えられる。

「平成21年版労働経済の分析」では、「賃金、物価、雇用の動向と勤労者生活」と題し、2007年後半から2008年央までの高い物価上昇により実質所得、消費が停滞し、その後、輸出と生産の落ち込みによって雇用情勢の急速な悪化に直面している勤労者生活について、賃金、物価、雇用の指標から総合的に分析する。

## 目次

### —賃金、物価、雇用の動向と勤労者生活—

<b>第1章 労働経済の推移と特徴</b> .....	<b>2</b>
第1節 雇用、失業の動向 .....	2
第2節 賃金、労働時間の動向 .....	6
第3節 物価、勤労者家計の動向 .....	8
<b>第2章 賃金、物価の動向と勤労者生活</b> .....	<b>10</b>
第1節 賃金、物価からみた我が国経済の展開 .....	10
第2節 家計に与える物価の影響 .....	14
第3節 物価の動向とマクロ経済 .....	18
<b>第3章 雇用の動向と勤労者生活</b> .....	<b>22</b>
第1節 企業経営と雇用の動向 .....	22
第2節 変化する就業形態と勤労者生活 .....	26
第3節 雇用システムの展望と課題 .....	30
<b>まとめ</b> .....	<b>34</b>